

# 「雄町」が歩んだ 波乱万丈ストーリー

長い歴史があるんじゃないか



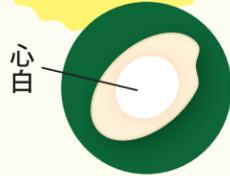
## ～発見～

1859年に岡山市雄町地区の農家が旅先で珍しい2本の穂を見つけ、持ち帰って育てたのが始まり。その後、酒米としての評価が高まり、全国各地に広がりました。育成地の名をとって「雄町」と呼ばれるようになりました。日本最古の原生種である「雄町」は、代表的な酒米である「山田錦」や「五百万石」をはじめ、現在の酒米の多くのルーツになっています。



### 「雄町」の特長

- ・米が大粒で柔らかい
- ・酒造りに重要な、米の心白部分が球状で大きい
- ・稲穂の背丈が高い



## ～復活～

(右)「雄町」を復活させた『利守酒造』4代目・利守忠義さん  
(下)利守社長の熱意と地域の農家の協力により、だんだんと作付面積を拡大



しかし、栽培の難しさと戦時下の食糧政策により第二次世界大戦中から戦後にかけて「雄町」は作付面積を減らしていき、1973年には岡山県では3ヘクタールを残すのみとなりました。この絶滅の危機にひんした「雄町」を復活させたのが、赤磐市の『利守酒造』の4代目の利守忠義さん。「地元の米、地元の水、自社の技で醸してこそ本来の地酒と言えると思う」という信念から地元の農家に働きかけ、作付面積は少しずつ増加。「雄町」を求める酒蔵も再度増加するに従い、2019年には600ヘクタールまで県内の作付面積を広げました。



## ～「オマチスト」誕生～

「雄町」復活の物語や魅力を伝え、「雄町」で造られた日本酒の試飲はもちろん、酒米の生産者や酒蔵などと交流ができる場として、2008年から東京で「雄町米サミット」が開催されています。「雄町」に魅了された愛好家は「オマチスト」とも呼ばれます。原料の酒米にまでこだわったファンを持つということは珍しいこと。そういった人にはこの「雄町米サミット」はたまらないイベントでしょう。



「雄町」好きの仲間と語り合える貴重な機会を求めて毎回大盛況。「雄町」から作られた日本全国の日本酒を試飲できるのも魅力

岡山県  
もっと!

岡山県民の「どねえなん?」にお答えします!

Motto! honma no toko  
done-nan?  
どホンマのどコ  
どねえなん?



# 『幻の酒米』として評価の高い「雄町」は 岡山発祥って知ってた?

他の酒米とどう違うんじゃないか?



みなさんは岡山の酒蔵で醸された日本酒を味わったことがありますか?  
県内には吉井川、旭川、高梁川と3つの一級河川があり、それらの豊かな水を使って各地で日本酒が造られています。また、岡山は数多くの酒米のルーツとなった「雄町」発祥の地。そのほか、山田錦の生産量も全国シェア2位、朝日米やアケボノの生産も盛んです。そんな岡山で生まれた日本酒のあれこれをご紹介します。

子どもはお酒を飲めんから、今回はとうちゃん頼むで〜

とうちゃんに任せとけ!



どがーなんとうちゃん  
どねえなんちゃんのお父さん。今まではビールか焼酎派だったが、最近日本酒も気になりはじめたとか

## 酒米「雄町」とは?

「雄町」は、深くしっかりとてこくがあり、うま味の強い日本酒ができる評判の酒米。米に強いこだわりを持つ蔵元から「雄町」を求める声が高まる一方、背丈が高く病害虫に弱い「雄町」は栽培が難しい上に収穫量も少ないので、入手しづらい「幻の酒米」といわれています。

栽培が難しい「雄町」はほかの県ではなかなか普及せず、現在、全生産量の9割以上が岡山県で作られています。それは、温暖な気候、そして県内の3大河川もたらす肥沃な大地が「雄町」の栽培条件に適していたからにほかなりません。

## 岡山は古くから酒造りが盛ん!

岡山では、良質な水、備中杜氏の技、そして高品質な酒米を使って、古くから酒造りが盛んに行われてきました。万葉集にも「吉備の酒」と詠まれたほどです。



雄町の岡山県での生産量  
雄町:2563トン  
全国の94.1%を生産でシェア1位!

「令和元年産米の農産物検査結果(速報値)」より

酒米全体の生産量も岡山は全国4位なんですよ



岡山県マーケティング推進室  
松本 健平さん

今回は「どねえなんちゃん」に代わり、「どがーなんとうちゃん」が岡山県の魅力や取り組みについてツッコみます!

今月のテーマ

酒米処おかやま

日本酒造りに欠かせない酒米。そのひとつ「雄町」は岡山で生まれました。日本酒と岡山の関わりを紹介します。

気軽にいろいろな地酒を楽しみたい人に朗報！

# 地酒がミニボトルで飲める、 「OKAYAMA SAKAGURA COLORS」

1本  
550円!

## 12月より販売スタート!

100mlの  
飲み切り  
サイズ!

県内の  
27歳が参加!



コロナ禍は日本酒の売り上げにも大きな打撃に。そこでJR西日本岡山支社、岡山県酒造組合、岡山県、岡山県観光連盟、日本旅行岡山支店、JR西日本コミュニケーションズ岡山支店ではこの状況を打破するために、岡山の地酒の魅力を伝えるべく動き出し、県内の地酒を手軽に楽しんでもらえるよう、27歳の日本酒をミニボトルサイズで商品化。ひとりで飲み切れるサイズで、飲み比べも気軽にできそうです。セットでも販売されるので、自分用はもちろん、プレゼントにも使えそう。イベントも企画されるというから、今後の動きに注目です!

### 〈販売場所〉

JR岡山駅せとうちCUBE、JR岡山駅おみやげ街道さんすて岡山店、天満屋岡山本店、天満屋倉敷店、ハレマチ特区365 (イオンモール岡山市内)

※ジェイアールサービスネット岡山ネットショップ  
(<http://www.jrsn-okayama.jp/fs/snokayama/>) からも注文可能



県内にもいろんな  
日本酒があるんじゃないかなあ~

※飲酒は20歳になってから。  
※飲酒運転は法令で禁止されています。  
※飲酒は楽しく適量で。飲みすぎにご注意ください。  
※妊娠中や授乳期の飲酒は胎児・乳児の発育に悪影響を与える恐れがあります。

関係者にインタビュー



辻本店 代表取締役 辻総一郎さん

岡山の酒蔵として「雄町」にこだわって醸造しています。「雄町」は野性味あふれる味わいが魅力。岡山県人は岡山の酒を飲む割合が少ないといわれています。この企画が消費の底上げにつながるようになればと願っています。



岡山県酒造組合 専務理事 貝原康郎さん

100mlという、これまでにないミニサイズでの販売です。県外の人へはお土産として、県内の人にはプチゼいたくなく家飲み1本として楽しんでいただければ。飲み比べて、気に入れば4合瓶を購入手続きがうれしいです。

〇〇に入る言葉を入れて、応募フォームのアンケートに答えて応募しよう!

雄町で醸した酒の愛好家「オマ●●●」

当選賞品はこちら

備前焼作家・松井浩之さん作  
とっとり&ぐい飲み木箱入り2名にプレゼント!

※写真はイメージです。一点ものなので色・模様など写真と異なる場合がございます。



以下のURLまたはQRコードから応募フォームに進み、必要事項を記入の上ご応募ください。

<https://tjokayama.jp/special/donenan2101/>

応募締切は2021年1月24日(日)まで

※プレゼントのご応募にあたり記載いただく氏名などの情報(以下まとめて「個人情報」)は、法的業務を伴う開示請求を受けた場合を除き、当選者への商品の送付以外の目的には使用いたしません。第三者が個人情報に不当に触れることのないよう、合理的な範囲内で厳重に管理いたします。個人情報(訂正・変更・そのほかのご連絡は「株式会社ビザビ メディア開発局 Tel.086-230-0182」までお寄せください。

